

# 「しらす」の組成について

矢口 正直

藤本 武

茨城県沿岸に於て漁獲される シラスは主としてマシラス *Sardinia melanosticta*, カタクチ *Engraulis japonicus* J. et S. シラウオ *Salangichthys microdon* (Breker) の三種である。主な漁場は磯浜を中心とした三浜地区及び久慈地先海面で (Fig. 1) 漁具は地曳網、船曳網、手曳網を使用し操業期間は 5月21日~9月 20日 (特別採捕期間) 間に限られて居る。



## 1. 資 料

調査資料は昭和 25 年 4月 18日より 9月 20日迄の間に磯浜、平磯、久慈浜地先水面に於て主として船曳網に依り漁獲されたものを同各組合より送付して頂き測定し、大きさは全長で表した。

## 2. 組 成

夫の漁期全般の組成は Tab.1, Fig.2 に示す様にカタクチが夫の大部分を占めて居り月別でも 5月、9月を除いた 4, 6, 7, 8月にはカタクチが大部分を占め、特に 8月には漁獲物の殆ど全体を占めて居る。それに反してシラウオは 5月より 8月に至るに従ひ減少し 8月には 1.1%となつて居る。此れは 5月にシラウオが産卵のため接岸する結果であろう。亦 6月より 8月になるに従ひカタクチ稚魚の混合比の増加するのは本縣以南で産卵された稚魚が本縣沿岸を北上する一方、シラウオは産卵を終了し離岸移動を行うためと考へられ

Tab.1 シラス組成

魚 種	IV	V	VI	VII	VIII	IX	平 均
マシラス	4.5%	1.6					1.0
カタクチ	92.0%	46.7	61.0	83.8	98.9	43.7	71.0
シラウオ	3.5%	51.7	39.0	16.2	1.1	56.3	28.0

る。マイワシ稚魚の混合比が低く亦短期間なので、シラス漁業のマイワシ漁業に影響する程度は少いと考へられる。

## 3. 体 形

### 1) シラス期カタクチ *Engraulis Japonicus*

本種は産卵期が周年連続的なので茨城沿岸に來遊する魚群にも數群が認められ、4月~9月迄の來遊群は3回來遊したと考へられる (Fig.3)。従つて本種の漁獲体形は季節及び場所に依り相違が認められるが上記 6ヶ月の資料の全長範囲は 1.5cm~4.0cm で夫の組成には 2.66cm~3.34cmに Mode があり最小形は 6月 8日平磯地先の Mode 2.26cm, 最大形は 6月 21日磯浜の Mode 3.77cmである (Tab.2)。6ヶ月を通じての全長の遷移は Tab.2, Fig.3に示す様に茨城沿岸では常に移動混乱して、同一魚群と思はれるものは大体 2ヶ月位沿岸に停滯して成長した後移動し、他魚群が再び來遊

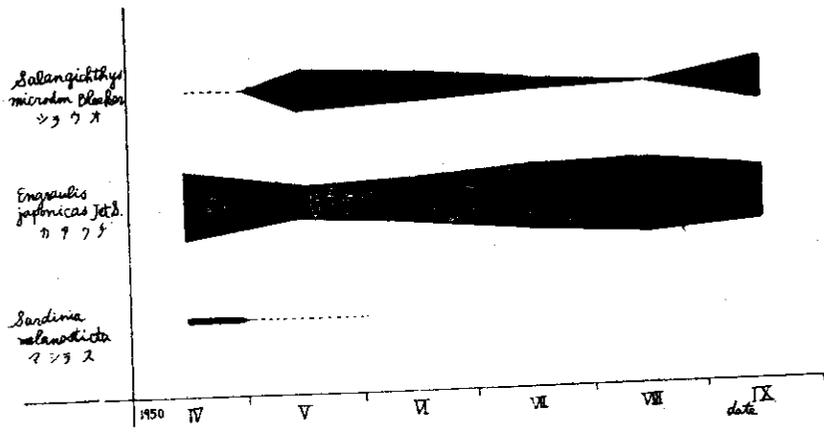


Fig. 2 重要シラス類・漁長

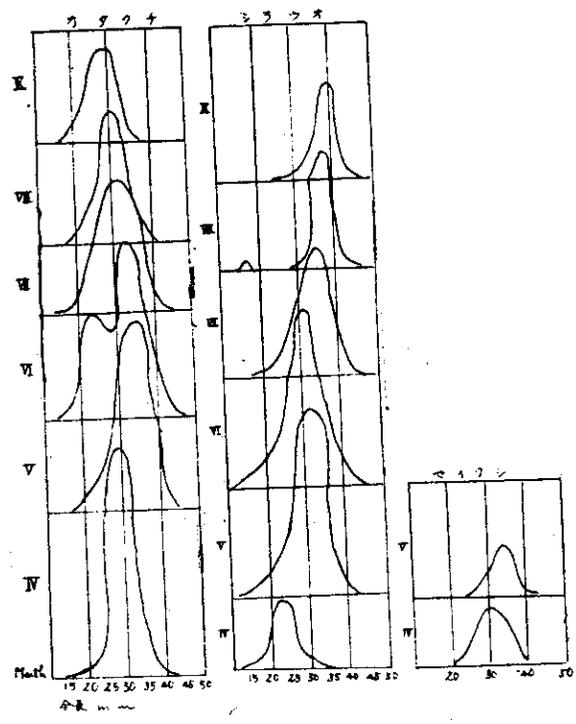


Fig. 3 体長組成

T8b.2 シラス全長

魚種	Month	Rang cm	Mean cm	Mode cm	S. D	C. V	E	測定尾數
Sardinia	IV	2.0~4.5	3.08 ± 0.047	3.05	0.390 ± 0.034	0.126	0.28	32
Melanosticta	V	2.5~4.5	3.35 ± 0.045	3.27	0.295 ± 0.032	0.088	0.27	20
Engraulis Japonicas	IV	1.5~4.0	2.88 ± 0.020	2.83	0.345 ± 0.016	0.120	0.14	100
	V	2.0~4.0	3.24 ± 0.019	3.34	0.425 ± 0.013	0.134	-0.3	226
	VI	1.5~5.0	2.99 ± 0.011	3.24	0.582 ± 0.008	0.194	-0.42	1229
	VII	1.5~4.5	3.16 ± 0.015	3.04	0.483 ± 0.010	0.163	-0.09	501
	VIII	2.0~4.5	2.85 ± 0.014	2.81	0.350 ± 0.010	0.123	0.11	299
Salangichthys microdon	K	1.5~4.0	2.89 ± 0.022	2.66	0.341 ± 0.016	0.131	0.17	109
	IV	1.5~3.5	2.37 ± 0.041	2.03	0.331 ± 0.029	0.140		30
	V	1.5~4.0	3.03 ± 0.010	3.13	0.424 ± 0.011	0.140	0.24	284
	VI	1.0~4.5	3.02 ± 0.010	3.18	0.527 ± 0.007	0.174	0.30	1145
	VII	2.0~4.5	3.34 ± 0.019	3.42	0.385 ± 0.013	0.115	-0.21	193
Salangichthys microdon	VIII	1.5~4.5	3.63 ± 0.073	3.77	0.484 ± 0.051	0.133	-0.29	20
	K	2.5~4.5	3.79 ± 0.013	3.78	0.263 ± 0.009	0.069	0.04	176

して来る模様で漁期間に 4,5月、6,7月、8,9月に各 1群づつ移動來遊して來たと考へられる。体長の分布曲線 (Fig.3) に依ると Mode 2.66cm~3.34cm に類型で平均体長は 2.88cm~3.24cm の來遊魚群である。

2) シラス期マイワシ *Sardinia melanosticta*

茨城のマイワシはカタクチより漁期が短く Fig.2 の様に 4~5月で 4.5%及び 1.6%で平均混合比は 1.0%である。資料が少ないため詳細ではないが体形は 3.05cm~3.27cm に Mode があり全長分布は Fig.3の通りである。

3) シラス期シラウオ *Salangichthys microdon* (Bleeker) 3~4月茨城沿岸で産卵 成育した稚魚シラウオがシラス期カタクチと共に比較的淺處で漁獲されたもので、Mode の範囲は 2.03cm~3.78cm で漁期間の成長は顯著で成長し乍ら接岸し此期間に 1.5cm~2.0cm の成長をする。魚体の平均体長は 2.37cm~3.79cm で漸次成長傾向を示す。

4. 結 論

茨城沿岸に來遊するシラス群中、カタクチは特別採捕期間中 (5月~9月) 連続的に數回成長しつづつ來遊する。來遊群は 3.0cm 附近に Mode があり、千葉以南の魚群より稍成長して居る模様で廻遊群の大部分がカタクチシラスであり、茨城沿岸にはマシラスの來遊が少ないのでマイワシ資源に影響する事はないものと考へられるが基礎調査が充分行はれて居ないので断定は出來難い。他の沿岸性重要魚種の幼稚魚に就ても多量に漁獲されないの以上記と同様の結果と考へられる。

文 献

石山禮藏：水産研究誌, 40 (2.) 1950.